

天まで届け! 七夕風船リリース



七夕の日、16時半から研修棟前で毎年恒例の風船リリースを行いました。津市の観音橋で行われる七夕行事との連動企画で、津青年会議所に企画していただきました。沢山の環境風船を用意していただき、病棟からも大勢の方が参加してくださいました。津青年会議所の方から七夕のお話を聞き、合図と共に一斉に願いを込めた風船を離しました。歓声と拍手が上がり、皆で風船の行くところを小さくなるまで追っていました。「ここ最近で一番感動した」といった感想も聞かれ、患者様・職員共々の楽しそうな笑顔、声を聞くことができました。津青年会議所の方々も「来年も是非やりたい」と意気込んでみえました。願いが天まで届きますように!!

(指導主任 横山 尚子)

食中毒予防 お弁当&BBQ編

食中毒予防の基本は「つけない・増やさない・やっつける」ですが、お弁当やBBQではどのような事に気を付ければよいのでしょうか。

お弁当編

- ▶ 手やお弁当箱を良く洗い、菌をつけない
- ▶ 食材は中心までよく加熱する
- ▶ おかずは水気をよくきってから詰めて、冷めてから蓋をする
- ▶ 涼しい所で保管し、保冷剤やクーラーボックスを使って保管する
- ▶ 早めに食べるようにし、匂いや味に異変を感じたら食べないようにする

BBQ編

- ▶ 調理前、喫食前は手を洗う!水が無い場合はウエットティッシュで良く手を拭く
- ▶ 肉や魚など加熱が必要な食材と、生で食べる食材が直接触れないようにする
- ▶ 食材は、保冷剤やクーラーボックスを使用し、高温な場所に食材を長時間放置しない
- ▶ 現地で食材を切る時は、包丁やまな板を、加熱が必要な食材と生で食べる食材で分ける、一つしかない場合は、先に生で食べる食材を切るようにする
- ▶ 肉や魚介類は、中心まで火を通す
- ▶ 加熱が必要な食材を扱う箸やトングを用いて調理し、焼きあがったら喫食用の箸で食べる
- ▶ 早めに食べるようにし、匂いや味に異変を感じたら食べないようにする

お弁当もBBQも気を付けるポイントがよく似ていますね。

「つけない・増やさない・やっつける」を実践し、楽しい夏の思い出を作ってくださいね(^O^)

(栄養士 青山 裕一)

寄贈 「わかあゆの歌」

外来ホールに入って左手に「わかあゆの歌」という歌詞の銘板を5月17日に設置しました。銅製のため目を引きますので直ぐに気づかれるかと思えます。

この銘板は、昭和51年の国立病院時代、医務課長(現在の副院長相当)としてご活躍された熱田 裕先生からのご好意により作成したもので、趣旨を快諾いただき掲示しています。

熱田先生は小児医療がご専門で、とくに重症ぜんそく児の治療に尽力され、小児ぜんそく専門病棟である「わかあゆ教室」を開設されました。「わかあゆの歌」は、先生指導のもとで、心身鍛練療法で長きにわたり歌われました。

40年以上も前のことですが、こどもたちがこの歌を元気に歌い、若鮎のように生き生きと体操している姿が目に見えられます。

(企画課長 堀 勝則)



ヨーロッパアレルギー学会に参加して

みなさんこんにちは、小児科の桑原優と鈴木尚史です。

暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか?

さて、私たちは6月にフィンランドのヘルシンキで開催されたヨーロッパアレルギー学会(European Academy of Allergy and Clinical Immunology)に参加してきました。桑原は気道リモデリングにおける好酸球と細胞外マトリックスメタロプロテアーゼ2の働きについてポスターで、鈴木(尚)は小児喘息患者における血清ペリオスチン測定の意味についてeポスターで発表しました。

ヨーロッパだけでなく世界中から参加者がおり、日本よりもオープンな雰囲気、非常に熱い議論が交わされていたのが印象的でした。また、沢山の企業がブースを出していたり、広い会場内はどこも活気にあふれていました。

ヘルシンキは街もキレイで、人も優しく、食事も美味しく、またぜひ訪れたいと思う街でした。

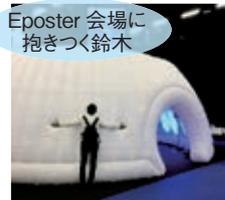
沢山の刺激を受けて帰ってきて、またこれから日々の診療を頑張りたいと思います。

ヘルシンキへはセントレアから直行便が出ますので、ぜひ次の旅行の目的地にしてみたいはいかがでしょうか??

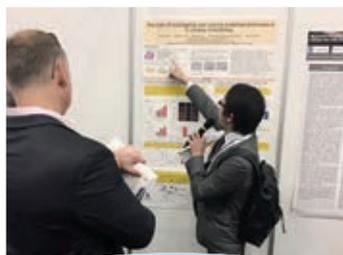
(アレルギー科 桑原 優 / 鈴木 尚史)



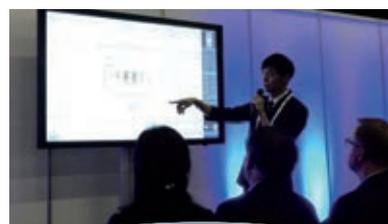
ウスペンスキー寺院



Eposter会場に抱きつく鈴木



桑原発表中



鈴木発表中